# 第9回しまね小中学生新聞コンクール 新聞つくりタイムズ

第2号

12月4日まで 作品募集！

## 第8回 しまね小中学生新聞コンクール 各部門の最優秀作品

小学3年生の部

「見てきれい　食べて　おいしい　うめ新聞」

松尾凛さん（浜田市立石見小学校）

小学4年生の部

「守ろうよ！　島根の宝　木次線トロッコ新聞」

森脇恵太君（松江市立意東小学校）

小学5年生の部

「目指せゴールドめんきょ！　自転車新聞」

鳥飼逢生君（松江市立法吉小学校）

次回は17日掲載です。

これまでの優秀作品は山陰中央新報社のホームページで見ることができます。

# どんどん質問 情報集め

新型コロナウイルスの第２波に備えた医療体制について島根県の担当者に取材する平井優香記者（左）＝松江市殿町、島根県庁

## 取材をしよう

◆今日の講師
編集局政経部
平井　優香記者（28）

2016年入社。地域報道部を経て19年春から政経部。昨年の日韓関係を考える連載記事「漂流日韓」では韓国への留学経験を生かし現地を取材した。

## 実際に現地見て確認

普段は松江市の島根県庁にある「記者クラブ」に籍を置き、教育や健康福祉の分野を取材しています。

「取材」は、記事の材料となる情報を、人に話を聞いたり、その場所に行ったり、本やインターネットで調べたりして集めることです。知らない人と話をするのは緊張しますが、新たな発見や出会いの連続で、記者の仕事の面白さが詰まっています。

### 準備はお守り

私が取材前に大切にしていることは「準備」です。取材テーマや相手について調べ、知りたいこと、聞きたいことをノートに整理しておくのです。

準備をしておくと、限られた取材時間でより的確な質問ができます。いい質問にはいい答えが返ってきます。何より、緊張しても準備がしてあれば安心できます。お守りのようなものです。

今はインターネットで何でも調べられますが、その情報が本当かどうかは分かりません。必ず取材で確認を取りましょう。相手の言葉や現場の雰囲気など、大事だと思ったこと、印象に残ったことはメモを取ります。

質問するときは「5W1H」（図参照）を意識します。いつ、どこで、誰が、何を、なぜ、どのように・どうした―の六つを押さえて質問すると、大事なことを逃さず聞くことができます。

「どんな方法で？」「どんな気持ちで？」など「どのように・どうした」の質問は、相手から具体的な答えを引き出し、記者もどんどん質問を重ねて話題を広げることができます。

新聞記者は記事にする内容の10倍の情報を集めろ、といわれます。取材不足だと、材料が足りず記事が書けません。恥ずかしがらず、どんどん質問しましょう。分からないことはそのままにせず、納得いくまで聞く。いい記事は、いい取材があってこそ書けます。

### 直接訪ね話す

「百聞は一見にしかず」という言葉があります。何回も話を聞くより、一度でも実際に見た方がよく分かる、という意味です。

昨年、日本と韓国の関係を考える記事の取材で韓国へ行きました。日本製品を買わない「不買運動」が市民に広がっていた時期で、新聞やテレビでその様子を見ていた私は少し不安な気持ちでした。

訪れてみると、「日本製品は売りません」という張り紙をしている店はありましたが、韓国の人がみんな日本を嫌っているわけではありませんでした。日本料理店では若い人たちが食事をしていたし、取材相手の中には「日本が好き」「隣の国同士助け合った方がいい」と言う人がいました。行く前に想像していたことと、現地で見て感じたことは違っていました。

皆さんも、直接その場所に行き、直接話をして情報を得ることを大切にしてください。しっかり準備をして、好奇心を持って取材をしましょう。

### 取材、記事、見出し… 新聞作りのキーワード

**六つの大事なこと（5W1H）**

| | | |
|---|---|---|
| いつ (When) | どこで (Where) | 誰が (Who) |
| 何を (What) | なぜ (Why) | どのように どうした (How) |

主催：山陰中央新報社

# 第9回 しまね小中学生新聞コンクール

作品募集中！

応募締め切り 12月4日（金）新聞社必着

■対象
島根県内の小学生と中学生

■応募規定
◎専用の応募用紙を使った個人の作品　◎テーマは自由。一人2作品まで応募可
◎用紙はタテに使い、内容は枠の中におさめる
◎文字は手書き（手書きが難しい人はパソコン使用可）
◎人の文章や写真を勝手に自分の作品に使わない。本や新聞、インターネットの文章を引用する時は「　」をつけて示すなど、自分の文章と区別して、出典（出どころとなった本や新聞の名前、掲載日）を入れる。写真は撮影者などに許可を得る

■審査と賞
◎学校の先生や新聞記者による審査会を12月～来年1月に3回実施
◎学年ごとに最優秀賞（1）、優秀賞（1）、優良賞（1）、入選（17）、佳作（30）の計50点、「学校賞」（小中学校各5校程度）を贈る
◎副賞は最優秀賞（図書カード3万円）、優秀賞（同2万円）、優良賞（同1万円）、入選（同1,000円）、学校賞（同1万円）。応募者全員に参加賞
◎上位3賞の入賞者、学校賞は来年1月下旬に山陰中央新報の紙面で発表
◎入選、佳作受賞者は来年3月に山陰中央新報に掲載予定の特集紙面で発表
◎作品は審査終了後、随時返却します（入選以上は来年3月から開催予定の作品展終了後）

■応募方法

■先生方へ～新聞社への応募の手順
①作品を学年ごとにまとめる
②山陰中央新報社「しまね小中学生新聞コンクール」のホームページから各学年用の「エントリーシート」（応募者名簿）をダウンロードし、学校名、応募者名、作品番号を記入
③各学年の作品の束に、プリントアウトしたエントリーシートを添え、新聞社へ提出（郵送、持ち込みなど）。エントリーシートのデータを新聞社にメールで送る

■問い合わせ・作品の送り先
◎住所／〒690－8668 松江市殿町383山陰中央新報社「しまね小中学生新聞コンクール」事務局
◎電話／0852（32）3414※平日9:30～17:30　◎ファクス／0852（32）3520
◎メールアドレス／shochu@sanin-chuo.co.jp

●応募作品の著作権は山陰中央新報社に属し、山陰中央新報本紙やホームページに掲載するほか、優秀作品は県内で開催する作品展で展示します●応募の際にいただいた個人情報はコンクール運営にのみ使用し、第三者への提供はしません

●共催／山陰中央新報会●後援／島根県、島根県教育委員会、松江市教育委員会、安来市教育委員会、出雲市教育委員会、雲南市教育委員会、奥出雲町教育委員会、飯南町教育委員会、浜田市教育委員会、大田市教育委員会、江津市教育委員会、川本町教育委員会、美郷町教育委員会、邑南町教育委員会、益田市教育委員会、津和野町教育委員会、吉賀町教育委員会、海士町教育委員会、西ノ島町教育委員会、知夫村教育委員会、隠岐の島町教育委員会、島根県小学校長会、島根県中学校長会、島根県特別支援学校長会、島根県私立中学高等学校連盟、島根県教育研究会、島根県特別支援学校教育研究会、島根県PTA連合会、島根県特別支援学校PTA連合会、島根県私立中学高等学校PTA連合会（順不同）●協賛／イオンリテール株式会社

AEON 木を植えています 私たちはイオンです